令和４年６月

青　藍　会　会　報

第 99 号

徳島大学医学部医学科同窓会

自治医科大学心臓血管外科部門
教授　川　人　宏　次

Unlimited curiosity
Unlimited enthusiasm
Unlimited optimism
and
Unlimited friendship!

梅雨晴れ

徳島市内を流れる園瀬川堤防を紫陽花が彩ります。夏も近いと感じる朝でした。

撮影　工 藤 美千代（医学部33期）

青藍会総会開催のご案内

日　時：令和4年7月18日（月）海の日　10時30分～16時00分

場　所：ハイブリッド開催（ZOOM によるリモート・青藍会館大会議室）

1　議　事（10:30～12:30）

2　昼休憩（12:30～13:35）

3　2021年度青藍会賞の発表及び授与（13:40～）

4　2021年度青藍会賞受賞講演（13:50～14:20）

徳島大学病院外科（消化器・移植外科）講師
齋　藤　　裕　先生（医学部53期）
演題「ヒト脂肪由来間葉系幹細胞から超高機能肝細胞様細胞の創出」

座長　島 田 光 生 先生

5　学術講演（14:30～16:00　1人40分　質疑応答含む）

広島大学大学院医系科学研究科麻酔蘇生学講座教授
堤　　保 夫 先生（医学部43期）
演題「本邦における悪性高熱症の検討」

座長　田 中 克 哉 先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部公衆衛生学分野教授
森 岡 久 尚 先生（医学部45期）
演題「政策課題の解決に向けた公衆衛生学の取組みの推進」

座長　上 田　　茂 先生

リモートでの参加をご希望の方はメールにてご連絡をお願いいたします
青藍会事務局　seiran@tokushima-u.ac.jp

なお，会場へお越しいただくことも可能ですので，同封のハガキにてご連絡をお願いいたします

巻　頭　言

「COVID-19」と「民間医療機関」そして「地域医療構想調整会議」

青藍会奈良支部長
野　中　家　久（医学部13期）

2020年２月のクルーズ船の乗客・乗員から発生した新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者は2022年３月現在606万人，死亡者は27,056人に達しています。第１波から第６波に進展し，四苦八苦の状態が続いています。『蔓延防止措置』や『緊急事態宣言』が実施され社会の経済環境や，医療環境が激しく変化してきました。民間医療機関の状態の変化に絞ってみてみますとこの『新型コロナ禍』によって，感染リスクを危惧する患者の医療機関への受診抑制が起こりました。さらに，高齢化と人口減少により受診者の減少がそれに拍車をかけています。

新型コロナ感染者対応の病床が足りないために「医療崩壊」と言われましたが，国公立自治体病院は，公的補助金によって病院の整備が行われておりますが「民間医療機関」の医療提供体制の整備は「診療報酬」によってのみインフラの整備を行わなければなりません。
たとえ病床の整備がなされても，精いっぱいのスタッフでの配置と，治療にあたる人的資源の確保は，非常に困難となっています。さらに「スタッフの感染」「クラスターの発生」「過重労働」が大きな負担となっています。多くの民間医療機関での，クラスター発生の予防は，院内での頻回の『感染防止対策研修会』が，非常に有用であったと報告されています。

ウイルスは「デルタ株」から「オミクロン株」へ，さらに変異を起こしてきています。ワクチンも３回から，４回目の接種が必要とも報じられています。経口治療薬の完成とともにこの「新型コロナウイルス」がいずれ「インフルエンザ」と同じ「類」になる日を念じています。

一方新型コロナウイルス感染対応を踏まえた，今後の医療提供体制の構築に向けて「地域医療構想調整会議」が各地方で，順次定期的に開催されております。医療機関の連携が「地域医療連携室」を通して『面倒見のいい病院』として病床の調整や，専門治療の振り分け等「医療機関」は大きく変化していく時代に突入していきます。2040年には地方自治体の半数以上が，人口減少によって消滅の危機と言われています。

さてその時，どうする！

目　次

○題　　字……川　人　宏　次
○写　　真……工　藤　美千代
○青藍会総会開催のご案内
○巻　頭　言……野　中　家　久
○青藍会の助成活動
青藍会奨励賞の授与（令和３年度臨床実習後 OSCE 成績優秀者表彰者）…… 1
徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告……安　倍　正　博…… 2
○青 藍 会 賞 募 集…… 3
○支　部　紹　介…… 4
○支 部 だ よ り
北 海 道 支 部……石　丸　裕　晃…… 6
東　京　支　部……石　井　保　夫…… 6
近　畿　支　部……播　村　佳　昭…… 7
兵　庫　支　部……楢　林　　勇…… 8
九　州　支　部……武　井　実根雄…… 9
○特　別　寄　稿
五十余年を振り返って……伊　東　　進……10
○会　員　通　信
元気で長生き　―笑う門には福来たる―……國　重　昭　郎……12
胃癌の早期診断……渡　辺　圀　武……12
COVID-19の様々な影響……板　東　　浩……13
アメリカでのドゥーラとオミクロン株体験記……西　田　玲　子……14
ポプラ会会報　第94報・第95報……四　宮　孝　昭……15
17回同期会もウェブ開催，18回は？……本　田　壮　一……16
小林　力君を悼む……楢　林　　勇……17
齊藤隆雄先生のご軌跡と思い出……北　畑　　洋……18
齊藤隆雄先生のご逝去を悼む……田　中　克　哉……19
俳　　句……小　谷　雄　二・雫　　俊　一・駒　木　幹　正・真　鍋　正　広……20
○徳島大学の動き
徳島大学大学院医歯薬学研究部長就任挨拶……赤　池　雅　史……21
徳島大学医学部長就任挨拶……西　岡　安　彦……21
徳島大学大学院医歯薬学研究部定年退任教授挨拶……武　田　憲　昭……22
徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介……沼　田　周　助……23
川　人　伸　次……24
八　木　秀　介……25
○徳島大学 MD-PhD コース同窓会報告 ……荻　野　広　和……26

○青藍会学生広報委員紹介 ……福　本　和　生……27
倉　良　詩　夢……27
○青藍会の動き
青藍会出身教授一覧……28
徳島県病院事業管理者就任挨拶……北　畑　　洋……29
病院長就任挨拶……六　車　直　樹……29
医学部68期卒業生（令和４年３月卒業）……30
会 員 の 異 動……31
物　故　者……33
青藍会会費納入状況……34
会費納入のお願い・会費の納入について・振り込みについて……35
事務局からのお願い（個人情報の取り扱いについて・会員名簿の発行について（お願い）
なりすましのニセ電話について・原稿・扉の写真をお待ちしております）……36
○投　稿　規　定……38
○第39回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ……39
○編　集　後　記……広報　森　岡　久　尚……40

新入生歓迎会の開催中止について

令和４年４月６日，徳島大学が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため，令和４年度徳島大学入学式の式典を入学生のみで挙行されたことにより，青藍会主催の新入生歓迎会の開催は中止いたしました。新入生にはご入学を祝して，荒瀬誠治会長からのお祝いメッセージを添えて，青藍会だより・青藍会会報第97号・第98号をお贈りいたしましたので，ご報告申し上げます。

青藍会の助成活動

青藍会奨励賞の授与（令和３年度臨床実習後OSCE成績優秀者表彰）

令和３年度臨床実習後 OSCE 成績優秀者11名に青藍会奨励賞を授与しました。

青藍会奨励賞を受賞して

木　内　華　由（医学科６年）

この度は青藍会奨励賞をいただき，誠にありがとうございます。この結果は私自身の力だけでなく，ご指導いただいた先生方や，切磋琢磨し合った友人たちのおかげでもあると感じています。今後も周囲への感謝を忘れず，日々努力してまいります。

久　保　萌　加（医学科６年）

この度は，青藍会奨励賞をいただき誠にありがとうございます。この賞をいただいた時の感動を忘れずに，またこの賞に恥じないように，これから医師としてより一層研鑽を積んでまいります。本当にご指導ありがとうございました。

坂　尾　祐佳子（医学科６年）

この度は名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。私の人生においてかけがえのない，充実した６年間でした。お世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。徳島大学での学びや経験を礎とし，社会に貢献できるよう精進して参ります。

林　　菜　緒（医学科６年）

この度は青藍会奨励賞という名誉ある賞を頂き，誠にありがとうございます。ご指導いただいた先生方をはじめ，臨床実習でお世話になった皆様に心より感謝申し上げます。学んだことを活かし，今後も精進していきたいと思います。

師　田　佑　美（医学科６年）

この度はこのような名誉ある賞を頂戴し，誠に光栄に思います。ご指導くださった先生方や切磋琢磨した友人達に心から感謝申し上げます。学生生活で頂いた沢山のご恩を少しでも返していけるよう，今後とも精進して参ります。

山　本　燦志郎（医学科６年）

臨床実習後OSCEは，臨床実習で学んだ医療面接や診察を客観的に見つめ直す良い機会だと感じています。今後は，大学での経験を活かして，患者一人ひとりを多角的に捉えることができる医師を目指し日々研鑽を積みたいと考えています。

令和３年度医学部各賞授与式にて

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，令和３年度医学部各賞授与式にて赤池雅史医学部長より授与いたしました。

▒▒ 青藍会の助成活動 ▒▒▒

青藍会賞募集

2022年度青藍会賞募集

2022年度青藍会賞を下記のとおり募集します。

本賞は青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために，若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1．応　募　資　格

2022年12月末現在で42才未満の青藍会正会員

但し，2022年度までの会費完納入者であること。

2．審　査　対　象

2018年１月から2022年12月までの研究業績を対象とします。

なお，選考では徳島大学で主として行われた研究であることを重視します。

3．応　募　締　切

2023年１月16日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4．応　募　手　続

以下の書類を青藍会事務局へ提出して下さい。（**原本とコピー各10部をご用意下さい**）

1．申請書（別紙様式１）
2．履歴書（略歴）（別紙様式２）
3．主指導者の推薦状（別紙様式３）
4．原著論文（2018年１月～ 2022年12月末に発刊された原著論文；通し番号をつけ，年代の近い順に記載し，主たる論文３編には通し番号に〇をつけること。主たる論文は筆頭著者の論文に限定しない。応募者には下線をひくこと。）（別紙様式４）
5．主たる論文３編の要旨；申請者が論文の研究においてどこに寄与したかの記載を含めること。（各400字程度）（別紙様式５）
6．主たる論文３編の別刷り（コピー可）
7．競争的資金の獲得状況（2018年１月～ 2022年12月末までに獲得した研究費の名称，研究期間，研究題目，直接経費の研究費総額。研究代表者の資金に限る。）（2022年12月末時点で採択が決定したものも含む）（別紙様式６）
8．今後の研究の展望（800字程度）（別紙様式７）

なお，同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位をつけること。

申請書等の各様式は青藍会事務局（seiran@tokushima-u.ac.jp）にご請求下さい。

5．選　　考

青藍会会長から委嘱された選考委員会が行います。

6．受　賞　者　数

原則一名

7．青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金100万円の目録を青藍会総会開催日に授与します。

研究助成金は受賞者あてで教室への委任経理金（奨学寄附金）とする。

8．受　賞　講　演

青藍会総会開催日当日，受賞講演を行っていただきます。（30分程度）

お問合せ先　青藍会事務局　TEL 088-633-7109（内線2601）
seiran@tokushima-u.ac.jp

徳島大学の動き

徳島大学大学院医歯薬学研究部長就任挨拶

医歯薬学研究部長就任にあたって

徳島大学大学院医歯薬学研究部長
赤　池　雅　史（医学部31期）

この度，令和４年４月１日付で医歯薬学研究部長を拝命しました。国立大学法人の第４期中期目標期間が開始される重要な時期に身の引き締まる思いです。蔵本地区には，医療系３学部７学科と５大学院研究科，先端酵素学研究所，ならびに徳島大学病院があり，全国に類を見ない生命科学・医療の教育研究拠点を形成しています。このような環境の中，医歯薬学研究部は教員所属組織として2004年の国立大学法人化にあわせて発足し，歴代研究部長の曽根三郎先生（19期），林良夫先生，玉置俊晃先生（23期），苛原稔先生（25期）によるご指導の下，医・歯・薬の人事と研究を所掌する組織へと発展してきました。さらに，蔵本地区の強みを最大限に活かした教育・研究拠点として，スキルスラボ，クリニカルアナトミーラボ，リカレント教育，AI･データサイエンス，国際交流，感染制御･災害医療等からなる「医歯薬学共創センター（仮称）」の構想が進められております。私はこれまでの伝統を受け継ぎ，各部局や教員の専門性・特色を活かしながら，蔵本地区から世界に向けて，医療・生命科学の教育・研究を発信していきたいと存じます。青藍会の皆様におかれましては，ご指導，ご支援のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

徳島大学医学部長就任挨拶

医学部長就任にあたって

徳島大学医学部長
西　岡　安　彦（医学部34期）

この度，令和４年４月１日付で，第28代徳島大学医学部長を拝命いたしました。身に余る光栄に存じますとともに，その重責に改めて身の引き締まる思いです。私は昭和63年に本学を卒業後，内科学第三講座（現在の呼吸器・膠原病内科学分野）に入局，平成23年11月１日より呼吸器・膠原病内科学分野の教授を務め10年半になります。

医学部では令和元年から始まったAO入試「四国定着研究医型」（現在の総合型選抜「四国研究医型」）の導入を担当しましたが，その後は副病院長（診療担当）として病院運営に専念してまいりました。医学科，医科栄養学科，保健学科の学生が徳島大学医学部において誇りを持って学び，そして徳島大学医学部での学びを自慢できるよう教育のさらなる充実に取り組む所存です。そのためには医学部の職員自身も自慢できる組織にしていくことが必要と考えています。研究面では，これまでの経験を活かし基礎と臨床の連携や，基礎および臨床研究医の育成に取り組みたいと思います。問題点を一つずつ解決し理想に近づけるよう努力する所存です。青藍会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い申し上げます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部定年退任教授挨拶

定年退任のご挨拶

徳島大学名誉教授
武　田　憲　昭

令和４年３月を持ちまして，耳鼻咽喉科学部分野の教授を定年退任いたしました。1999年12月に着任しましたので，22年４か月の教授の任期中，青藍会の先生方には，大変，お世話になりました。厚く御礼申し上げます。着任時にはまだ難聴診療部があり苦労がありましたが，医局，関連病院の先生方の協力と同門会の全面的なご支援をいただき，教室を発展させ，人材を育成することができました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の全ての担当範囲の専門外来を整備し，専門診療を充実させると同時に，特色ある医療が行えるようにしました。また，専門分野のオリジナルな研究に挑戦し，新しい医療を開発してきました。私の着任からの22年間で，50人の先生が耳鼻咽喉科専門医に認定され，徳島県だけでなく四国の関連病院にも医師の派遣を継続し，ほとんどの関連病院で増員をすることができました。22年間で教室から発表した英文原著論文は183編，医学博士は31人，留学をした先生は５人です。

私は，退任後は大阪には帰らず，徳島県の地域医療に貢献しつつ，論文執筆などの知的活動は継続するつもりです。青藍会の先生方には，今後とも耳鼻咽喉科学分野へのご支援，ご厚情をよろしくお願いいたします。徳島大学医学部と青藍会の益々の発展を祈念しています。長い間，ありがとうございました。

徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介

徳島大学大学院医歯薬学研究部
精神医学分野教授
沼　田　周　助（ぬまた　しゅうすけ）
昭和48年６月９日生

略　　歴

平成12年３月	徳島大学医学部卒業
平成13年５月	徳島大学医学部附属病院
平成14年５月	国立国際医療研究センター病院
平成16年５月	徳島大学病院精神科神経科医員
平成19年４月	徳島大学病院精神科神経科診療助教
平成20年２月	徳島大学病院精神科神経科助教
平成20年10月	米国国立精神衛生研究所留学
平成23年４月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野助教
平成25年９月	徳島大学病院精神科神経科講師
平成29年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野准教授
令和３年10月	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
教授　沼　田　周　助（医学部46期）

令和３年10月１日付けで大学院医歯薬学研究部精神医学分野の教授を拝命いたしました。青藍会先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

精神疾患は国の定める五大疾病の一つであり，社会における精神科医師の診療の役割と責務は非常に大きいと考えております。私の臨床の専門は統合失調症と気分障害と認知症でございます。教室でできる限り多くの精神科医・専門医を育成して地域医療の要となる人材を継続して輩出するとともに，大学病院においては最先端の医療を提供して徳島県の精神医療の拠点として地域医療へ貢献してまいります。青藍会の先生方には，今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部
歯科麻酔科学分野教授
川　人　伸　次（かわひと　しんじ）
昭和39年４月10日生

略　　歴

平成３年３月	徳島大学医学部医学科卒業
平成３年４月	徳島大学大学院医学研究科博士課程（麻酔学）入学
平成７年３月	同　修了
平成７年４月	徳島大学医学部附属病院麻酔科医員
平成７年７月	高松赤十字病院麻酔科医師
平成８年７月	徳島大学医学部附属病院麻酔科助手
平成11年４月	米国 Baylor College of Medicine, Department of Surgery, Instructor
平成13年４月	徳島大学医学部附属病院麻酔科助手
平成18年11月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部侵襲病態制御医学分野講師
平成19年４月	徳島大学医学部・歯学部附属病院麻酔科講師
平成27年２月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部地域医療人材育成分野特任教授
令和３年８月	徳島大学大学院医歯薬学研究部歯科麻酔科学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部歯科麻酔科学分野
教授　川　人　伸　次（医学部37期）

令和３年８月１日付けで，北畑洋名誉教授の後任として徳島大学大学院医歯薬学研究部歯科麻酔科学分野教授を拝命致しました。青藍会の先生方に謹んでご挨拶を申し上げます。

私は平成３年に徳島大学医学部を卒業し，徳島大学医学部麻酔学教室（現：麻酔・疼痛治療医学分野）に入局致しました。平成７年に徳島大学大学院医学研究科博士課程を修了後，高松赤十字病院で臨床研修し，その後は徳島大学で心臓麻酔を中心に臨床・研究・教育に従事して参りました。平成11年から２年間，米国ベイラー医科大学で体外循環・人工臓器の研究を行い，帰国後は周術期の呼吸・循環・代謝管理の研究を行っています。平成27年からは寄附講座：地域医療人材育成分野で地域医療・人材育成に努めて参りました。歯科麻酔科では口腔外科手術や歯科治療時の全身麻酔・精神鎮静法・モニター管理，頭頚部領域の疼痛緩和医療などを行っています。今後は，徳島大学の医科歯科連携に貢献したいと考えています。青藍会の先生方におかれましては，今後とも御指導・御鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。最後に，青藍会の益々のご発展をお祈り申し上げ，着任の御挨拶とさせていただきます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部
地域医療人材育成分野特任教授
八　木　秀　介（やぎ　しゅうすけ）
昭和46年８月20日生

略　　歴

平成10年６月	徳島大学医学部附属病院第一内科医員（研修医）
平成11年７月	高松市民病院内科医員
平成13年５月	国立循環器病センター心臓内科レジテント
平成16年５月	徳島大学医学部・歯学部附属病院循環器内科医員
平成17年４月	徳島大学医学部・歯学部附属病院救急集中治療部医員
平成17年７月	川島循環器クリニック医員
平成19年７月	徳島大学医学部・歯学部附属病院循環器内科医員
平成20年６月	徳島大学大学院 HBS 研究部循環器内科学助教
平成21年８月	米国 ニューヨーク州ロチェスター大学
平成24年８月	徳島大学病院循環器内科特任助教
平成25年４月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部循環器内科学助教
平成27年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学助教
平成28年11月	徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療人材育成分野特任准教授
令和３年11月	徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療人材育成分野特任教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療人材育成分野
特任教授　八　木　秀　介

令和３年11月１日付けで地域医療人材育成分野・特任教授を拝命いたしました。この場をお借りいたしまして青藍会会員の先生方に，謹んでご挨拶申し上げます。

私は徳島県出身で，愛媛大学卒業後，徳島大学旧第一内科に入局し，広く内科学を学んだ後，国立循環器病研究センターにて，循環器内科専門医としての教育を受けさせて頂きました。その後，米国にて基礎研究に従事し，帰国後は，徳島大学病院にて総合内科専門医・循環器内科医として研鑽を積んで参りました。心血管から全身を，全身から心血管を診る，全人的な総合診療を行うことを目標としております。当寄付講座は，循環器内科と麻酔科で構成されており，愛媛県四国中央病院にて臨床現場で医学の実践教育を行い，患者さんに寄り添った最高水準の治療を提供できる人材の育成を目指しております。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。青藍会の益々のご発展を祈念し，就任のご挨拶とさせて頂きます。

徳島大学 MD-PhD コース同窓会報告

徳島大学 MD-PhD コース魅力発信セミナー / 第７回近況報告会のご報告

荻　野　広　和（医学部56期）

医学部56期，徳島大学 MD-PhD コース３期生で現在徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科の荻野広和と申します。青藍会の皆様方には平素より本コースの発展のためご支援いただいておりますこと，この場をお借りし心より御礼申し上げます。さて本年（令和４年）も２月12日（土）に徳島大学 MD-PhD コース魅力発信セミナー / 第７回近況報告会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

昨年同様，新型コロナウイルス蔓延の影響を鑑み，Zoom を用いたオンライン形式での開催（および学内限定で３月12日までの間オンデマンド配信）となりました。MD-PhD コース同窓生のみならず学内外より参加者を募った結果，最終的に24名（うち同窓生８名）の参加者を得たほか，計12回のオンデマンド視聴を得ました。県下の高校生や他大学にて MD-PhD コース運営に関与する教員，また後述の通り特別講演を精神科医が務めたこともあり複数の精神科医にご参加いただきました。

冒頭で荻野より，徳島大学および他大学における MD-PhD コースの現況について，また３年前より本学にて導入された入学制度である総合型選抜「四国定着研究医型」について説明しました。このプログラムでは MD-PhD コースへの進学もしくは卒後３年以内に本学大学院への進学が前提とされており，質疑応答の場面でも複数のご質問をいただきました。続いて特別講演として本コース卒業生で医学部63期の足利赤十字病院神経精神科　西晃先生に「コロナ禍における精神科後期研修録」とのタイトルのもとご講演をいただきました。本コース在籍中に行った研究内容，米国留学体験談に加え，後期研修中に携わった「コロナ診療に携わる医療スタッフに対するメンタルケアの取り組み」についてのお話しがありました。私個人としては，普段なかなか聞くことのない他分野の研究内容および臨床医としての取り組みのお話しでしたが，非常に身近な内容でありとても興味深く拝聴いたしました。おそらく参加された多くの方が同じ感覚を持たれたことと推察しております。最後に同窓生一人一人より近況報告をしていただき閉会としました。

オンライン開催のメリットとしては，感染対策上望ましいという点以外に，物理的な移動が不要なことから同窓生がアクセスしやすいこと，また本年のように学外からの参加者を得やすいという点が挙げられます。一方で同じ志を持って本コースへ進学した仲間と会う年に一度の機会を失う寂しさもあり，コロナ収束後本会をどのように運営すべきか考えなければならないと思っております。

その後，同窓生のみで同窓会総会を開催し，千葉大学 MD-PhD コース１期生で現在ハーバード大学にて研究室を主宰されている高橋恵美先生に引き続き本コースのアドバイザーをお務めいただくこと，今年度の活動計画についての了承を得，閉会となりました。

最後になりましたが，今後も本コース発展のため尽力する所存でございますので，変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが，本会開催にあたりご支援いただきました AWA サポートセンター，医学部教育支援センター，高等教育研究センターアドミッション部門の皆様に心より御礼申し上げます。

MD-PhDコース同窓生集合写真

青藍会学生広報委員紹介

青藍会学生広報委員就任にあたり挨拶

福　本　和　生（医学科６年）

青藍会会報100号に向けて青藍会学生広報委員に任命されました医学科６年の福本和生です。青藍会の先生方，よろしくお願いいたします。製作にあたり青藍会会報を見返しますと，皆様のおかげでこのコロナ禍においても学生が大きな遅れ・不満なく学業や課外活動に精を出すことができていたことに気づき改めて徳島大学を支える人の繋がりを実感いたしました。そして100号という記念すべき節目に，学生を代表して先生方と青藍会会報作成に関われることを大変ありがたく思います。具体的に何ができるかはまだ分かりませんが，学生と先生方の間を取り持ち，卒業された先生方にも学生の今を届けることができればと思っております。微力ながら，青藍会の皆様に楽しんでもらえるよう精一杯励みたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

青藍会学生広報委員就任のご挨拶

倉　良　詩　夢（医学科６年）

この度，青藍会学生広報委員に任命されました医学科６年の倉良詩夢です。

月日が経つのは早いもので，いよいよ最終学年となりました。６年間ともに切磋琢磨してきた同級生，課外活動で出会った後輩たち，授業や実習・研究活動でお世話になった先生方，学び舎である徳島大学。今から別れが寂しいです。そして在校生と卒業された先生方の軌跡がつまった青藍会会報は，いつまでも青藍会会員を繋いでくれる掛け替えのないものです。その100号という節目にこのような大役を賜り，大変光栄に思います。

新型コロナウイルスによる未曾有の災禍の中，感染状況によっては，対面授業や研究活動，病院実習の中止も余儀なくされました。患者との接触機会が減るなど例年と違う状況に，このまま卒業して医師としての責務を果たせるのだろうかと当初は不安も抱えていました。しかし，大学や病院の先生方には，感染リスクを回避・低減しながらも手厚くご指導を賜っており，大変ありがたい限りです。

この混乱が一日でも早く終息へ向かいますことと，皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。また，全力を挙げて職務に邁進する所存でありますので，青藍会の先生方にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

青藍会の動き

青藍会出身教授一覧

（令和４年４月１日現在）

氏名	期	大学名	講座
田村　禎通	17	徳島文理大学	理学療法学科
木内　淳子	18	滋慶医療科学大学院大学	医療安全管理学
横関　博雄	26	東京医科歯科大学	皮膚科学
東　敬次郎	26	徳島文理大学	看護学科
斧　康雄	27	帝京平成大学	健康メディカル学部
峠　哲男	27	香川大学	健康科学
川上　照彦	27	吉備国際大学	理学療法学科
鶴尾　吉宏	28	徳島大学	顕微解剖学
下泉　秀夫	28	国際医療福祉大学	医療福祉
金山　博臣	28	徳島大学	泌尿器科学
重光　修	28	大分大学	救急医学
糟谷　英俊	28	東京女子医科大学	脳神経外科
谷　憲治	28	徳島大学	総合診療部
上田　夏生	29	香川大学	生化学
橋本　雅章	29	国際医療福祉大学	脳神経外科学
宇野　昌明	29	川崎医科大学	脳神経外科学
江原　寛昭	29	滋賀大学	障害児教育
伊藤　裕司	29	純真学園大学	医療工学科
横越　浩	30	四国大学	生活科学部
橋本　健志	30	神戸大学	保健学研究科
勢井　宏義	30	徳島大学	統合生理学
近藤　和也	30	徳島大学	臨床腫瘍医療学
安井　敏之	30	徳島大学	生殖補助･更年期医療学
森　健治	30	徳島大学	子どもの保健・看護学
安倍　正博	30	徳島大学	血液･内分泌代謝内科学
石堂　一巳	31	徳島文理大学	健康科学研究所
上野　修一	31	愛媛大学	精神神経科学
赤池　雅史	31	徳島大学	医療教育学
鈴江　毅	31	静岡大学	教育学部
三上　靖夫	31	京都府立医科大学	リハビリテーション医学
原田　雅史	32	徳島大学	放射線医学
高橋　吉孝	32	岡山県立大学	栄養学科
寶學　英隆	32	奈良先端科学技術大学院大学	保健管理センター
川人　宏次	32	自治医科大学	心臓血管外科
吉栖　正典	33	奈良県立医科大学	薬理学
二川　健	33	徳島大学	生体栄養学
岡久　稔也	33	徳島大学	地域総合医療学
浦上　淳	33	川崎医科大学	総合医療センター外科
坂東　良美	33	徳島大学	病理部
山口　文徳	33	愛媛県立医療技術大学	生体機能検査学
久保　宜明	34	徳島大学	皮膚科学
西岡　安彦	34	徳島大学	呼吸器・膠原病内科学
西良　浩一	34	徳島大学	運動機能外科学
橋本　一郎	34	徳島大学	形成外科学
志馬　伸朗	34	広島大学	救急集中治療医学
篠原　勉	34	徳島大学	地域呼吸器総合内科学
田中　克浩	34	川崎医科大学	乳腺甲状腺外科
髙橋　章	35	徳島大学	予防環境栄養学
松田　純子	35	川崎医科大学	病態代謝学
相澤　徹	35	高知リハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部
堀井　新	35	新潟大学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
篠原　尚	35	兵庫医科大学	上部消化管外科
早渕　康信	35	徳島大学	地域小児科診療部
安友　康二	36	徳島大学	生体防御医学
矢野　聖二	36	金沢大学	腫瘍内科／腫瘍外科
井原　義人	36	和歌山県立医科大学	生化学
田中　克哉	36	徳島大学	麻酔・疼痛治療医学
岩田　貴	36	徳島大学	医療系基盤教育
松崎　健司	36	徳島文理大学	診療放射線学科
住谷さつき	36	徳島大学	特別修学支援
上原　久典	36	徳島大学	病理部
岡本　康裕	36	鹿児島大学	小児科学
粟飯原賢一	37	徳島大学	糖尿病・代謝疾患治療医学
小山　文彦	37	東邦大学	産業精神保健・職場復帰支援センター
川人　伸次	37	徳島大学	歯科麻酔学
中村　教泰	38	山口大学	器官解剖学
遠藤　逸郎	38	徳島大学	生体機能解析学
添木　武	38	徳島大学	実践地域診療・医科学
上村　浩一	38	兵庫県立大学	保健医療福祉系
友竹　正人	39	徳島大学	メンタルヘルス支援学
桑原　知巳	39	香川大学	分子微生物学
前川　洋一	39	岐阜大学	寄生虫学・感染学
奥村　裕司	39	相模女子大学	健康栄養学科
松浦　哲也	39	徳島大学	脊椎関節機能再建外科学
井﨑ゆみ子	39	徳島大学	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門
大林　茂	39	埼玉医科大学	リハビリテーション科
埴淵　昌毅	39	徳島大学	地域呼吸器・血液・代謝内科学
大塚　秀樹	40	徳島大学	画像医学・核医学
山田　博胤	40	徳島大学	地域循環器内科学
和泉　唯信	41	徳島大学	臨床神経科学
若林　英樹	41	三重大学	家庭医療学
漆原　真樹	41	徳島大学	小児科学
大日　輝記	42	香川大学	皮膚科学
加藤　剛志	42	徳島大学	地域産婦人科診療部
居村　暁	43	徳島大学	地域外科診療部
大藤　純	43	徳島大学	救急集中治療医学
堤　保夫	43	広島大学	麻酔蘇生学
酒井　紀典	43	徳島大学	地域運動器・スポーツ医学
酒井　陽子	43	徳島大学	麻酔科診療部
池田　康将	43	徳島大学	薬理学
池本　哲也	44	徳島大学	安全管理部
伊藤　弘道	45	鳴門教育大学	特別支援教育
森岡　久尚	45	徳島大学	公衆衛生学
岡田　賢	45	広島大学	小児科学
沼田　周助	46	徳島大学	精神医学
吉川　幸造	47	徳島大学	実践地域診療・医科学分野
岩佐　武	48	徳島大学	産科婦人科学

徳島県病院事業管理者就任挨拶

徳島県病院事業管理者就任のご挨拶

徳島県病院事業管理者
徳島大学名誉教授
北　畑　　洋（医学部26期）

2021年４月より，急逝された香川征先生（元徳島大学長，元徳島大学病院長）の後任として，徳島県病院事業管理者を拝命し県立中央病院，三好病院，海部病院の運営にあたっています。

私は，1980年に齊藤隆雄教授が主宰されていた麻酔学教室に入局いたしました。2009年からは歯科麻酔科学分野の教授に就任し，海外留学期間を除いても36年間徳島大学でお世話になったことになります。また2016年からの５年間は，大学病院副病院長として病院運営に携わる機会をいただきました。

管理者に着任と同時にCOVID-19拡大により，徳島県の医療体制は逼迫した状況に陥りましたが，大学病院を始めコロナ受け入れ各病院や医師会の先生方を含めた皆様のご協力により，第４波，第５波を乗り切ることができました。現在は，県立病院の基本理念である県民医療の最後の砦としての役目を果たすべく，第６波への対応とともに救急医療やへき地医療との両立に全力で取り組んでいます。今後，アフターコロナを見据えて通常医療への段階的な復帰を目指すとともに，香川先生が築き上げられた総合メディカルゾーン，徳島医療コンソーシアムや関西広域連合における医療連携の充実を図っていきたいと思います。

最後に，一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を祈念するとともに，青藍会会員の皆様には引き続きのご指導よろしくお願い申し上げます。

病院長就任挨拶

ご挨拶

高松市立みんなの病院院長
六　車　直　樹（医学部34期）

令和４年１月１日付けで和田大助院長（現高松市病院事業管理者，名誉院長）の後任として高松市立みんなの病院院長に就任しました。

私は高松市の生まれで市内の小中高校を経て徳島大学医学部に進学し，卒業後は旧第二内科（森博愛名誉教授）に入局しました。伊東進名誉教授，高山哲治教授のご指導のもとで消化器内科を専門として診療・研究・教育に従事してまいりました。この度，故郷で医療に貢献できる機会を頂きましたことに深謝いたしますとともに，職責の重さを実感しています。

当院は平成30年に新築移転とともに，高松市民病院と町立香川病院の統合を受けて病院名を改称し，再スタートして４年目を迎えています。市南部の救急医療から高度ながん医療まで広い領域を担いますが，PET-CTやダヴィンチなど医療設備が充実しており，最善の医療が提供できるよう努めています。この度の新型コロナ感染症対策においては，急性期病院としての救急医療や手術，外来機能を維持しながら，コロナ専用病床確保やワクチン接種にも取り組んでいます。青藍会会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げますとともに，今後ともご指導，ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

投稿規定

広 報 委 員 会

○ 原稿について

●必ず，文頭にタイトル，氏名・卒業期をご記載ください。
　例　タイトル ○ ○ ○ ○ ○ ○　　山　田　太　郎（医学部○期）

●**文字数は1,400字以内，写真は１枚でお願いいたします。**
なお，写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。

●英数字は半角文字で，カタカナは全角文字で入力してください。

●原稿の文中に登場する氏名及び敬称については，スペースを入れずに記載してください。
（例　山田太郎君　　高倉健さん　　松下幸之助先生）

○ 原稿及び写真の送付について（青藍会事務局　seiran@tokushima-u.ac.jp）

●原稿送付は，可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については，郵送にてお送りください。後日，返送いたします。

●画像ファイルを送付される場合は，**原稿とは別に，JPEG ファイル等でお送りください。**
原稿（Word 等）に貼り付けますと，画質が悪くなります。
なお，画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして１枚ずつに分けてお送りください。また，**青藍会事務局からの連絡がなかった場合は，届いていないことが考えられますので，再度確認のご連絡をお願いいたします。**

○ 原稿の締め切り日を厳守願います（次号100号の締め切り日は９月30日（金）です）

会報の印刷および製本には，原稿をお預かりした後，ゲラ刷り作成，校正，修正，編集会議等で２ヶ月ほどの時間を必要といたします。
締め切り日より遅れた場合は，次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

●お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果，修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。

●用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

●広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後，製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので，著者校正をお願いいたします。

●**校正時の大幅な追記，削除等は，会報発行期日に影響いたしますので，ご遠慮くださいますようよろしくお願い申し上げます。**

第39回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ

第39回青藍会・医学科講演会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

日　時　令和４年10月20日（木）18時30分～20時
場　所　徳島大学藤井節郎記念ホール（蔵本キャンパス）※変更になる場合があります
座　長　西岡 安彦 先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野教授）

講 師　**舘田 一博　先生**
東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授

演 題　「COVID-19 との対峙
ー私たちの経験と英知を結集してー」

舘田一博先生ご略歴

1985（昭和60）年	3月	長崎大学医学部卒業
1985（昭和60）年	6月	長崎大学医学部第二内科入局
1990（平成 2）年	10月	東邦大学医学部微生物学講座　助手
1999（平成11）年	10月	米国ミシガン大学呼吸器内科留学（2001年3月）
2005（平成17）年	12月	東邦大学医学部微生物・感染症学講座　准教授
2011（平成23）年	4月	同講座　教授
		東邦大学医療センター大森病院 感染管理部部長

関係学会等

日本感染症学会理事	理事長（2017-2021）
日本臨床微生物学会	理事長（2018-2022）
ICD 協議会	議　長（2017-2021）

※新型コロナウイルス感染拡大のため開催が変更または中止になる可能性がありますので，最新の情報については青藍会ホームページをご覧ください

青藍会ホームページ
https://www.seirankai-tokushima.jp/

共催　青　藍　会
　　医　学　科

編　集　後　記

青藍会会報第99号をお届けすることができました。寄稿いただきました先生方に感謝申し上げます。私が東京支部に属していた頃は，支部だよりを寄稿する側でしたが，先号より，広報担当幹事の先生方に指導いただきながら，原稿の校正など会報を作成する側にまわっております。母校から離れた地で活躍されている会員の先生方にとりましては，会報は支部総会と同じくらい，母校や会員相互の絆を確認し，深めるものとなっているのではないでしょうか。そのような大切な会報を今後も継続して発行できるよう協力してまいります。

第99号は，特別寄稿として伊東進徳島大学名誉教授に寄稿いただきました。その他は近年の会報とほぼ同様の構成となっております。新型コロナウイルス感染症は収束しておりませんが，Web による同窓会や支部総会の開催など実施方法が変わったものも含め，青藍会の活動が徐々に再開してきていることを拝見し，勇気づけられております。

会報も次号で記念すべき第100号となります。荒瀬誠治会長をはじめ関係者を中心に構成の検討を行っております。是非とも期待いただきたいと思います。最後になりましたが会員の先生方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

森　岡　久　尚（医学部45期）

編　集　広報委員　橋本　一郎（34期）　大塚　秀樹（40期）　工藤美千代（33期）　高橋　浩子（34期）
田中　克哉（36期）　板東　　浩（27期）　森岡　久尚（45期）
学生委員　倉良　詩夢（医学科６年）　福本　和生（医学科６年）

非　売　品

青藍会会報第99号

令和４年６月３日印刷
令和４年６月10日発行

発　行　徳島大学医学部医学科同窓会青藍会
〒770－8503　徳島市蔵本町３丁目18－15
電話（088）633－7109（内線2601）
FAX（088）633－3180（青藍会事務室）
E-Mail　seiran@tokushima-u.ac.jp
URL　https://www.seirankai-tokushima.jp/
振替　01680－4－8671
ゆうちょ銀行 一六九店（169）
当座 0008671 青藍会

発行者　青藍会会長　荒　瀬　誠　治

印刷所　グランド印刷株式会社
徳島市万代町６丁目20－15　電話（088）622－8448